

室堂 → 奥大日 → 大日岳 → 馬場島 (コット谷)

小林真人

大日の山々は、ずっとな前から気になる存在だった。夏には涼しげな緑衣を、春にはこんもりとした綿の衣を見せながら、室堂のにぎわいと、立山の雄々しさとは一線を画しているように思えた。山にとってはいい迷惑かもしれないが、私は、このように中心から少し離れた所で存在を主張しているものに思い入れしてしまう。

大日の山頂からは、正にスキーの為にあるような大斜面がいくつもあるが、ている。下端がざっくりと呼名川に向けて切り立っていることを十分承知していて、それでも滑りたくなってしまう。いじめるな呼名川の裏をかいて何とかならぬかと思いたが、適当な策が見つからない。そこで、とりあえず山頂を踏むことが肝心と、5月連休にこのルートと企画した。

奥大日から中大日への岩場とアイリッジを越えた瞬間、たおやかな大日の世界が広がる。好天のほか、良さそうな斜面に色目を使いながら 稜線とたどれたのは、実にどう快であった。

道中、いくつかの難所があった。しかし、あてにできないリーダーに頼らず、まさに同行の籠嶋・高野・白沢・蔵田各氏の経験とあわせて初トレイルを成功させた充実感には、リーダーとしてもひとしおであった。このことが、より一層、私の大日への好感を高めていることは疑いない。

白沢氏による山行記事 (La Neige 188) を読みかえして、いまだに、素直に「良かった」と思うのである。